

中村相談役を偲んで

寄稿者：平井博二

(日本国際貿易促進協会 相談役)

日本国際貿易促進協会事務局の中で、最古参の一人であった中村敬太郎相談役が亡くなった。享年 92 歳。国貿促が発足（1954 年）して 4 カ月目に中村さんは入社し、東京高等商業学校（現一橋大学）卒業後、証券会社での経験があったことから経理畑に配属された。創立したばかりの国貿促事務局として社会的な手続きや登録などを進める必要があり、それらの業務を推進した。たとえば厚生年金に加入したことなどは当時、政府系団体などを除いて、民間の任意団体としては進んだ措置であった。

1958 年、経理を含む総務課長として活動した。この年日本実業団の朝鮮訪問があり、その団の秘書長として訪朝した。1961 年には展覧部長として、中国、ソ連での日本の展覧会業務（主として專業展）の開催を担当するようになった。1969 年の北京日本工業展覧会をはじめ、天津建設機械展、金属加工建材展、第 2 次天津自動化展、北京繊維工業展、民生産業技術展等の展覧会を主導・参加した。その間、1976 年には北京事務所の所長を務め、また最初の都長銀友好訪中団や損保友好訪中団、山東省経済貿易協力促進団に役員として参加したほか、日中の海運業務をも担当した。1971 年から常務理事、1982 年からは専務理事・事務局長として、国貿促全般の業務に目を配った。日本全土の国貿促六団体と共に毎年訪中し、中国国際貿易促進委員会と業務打合せを行い、1988 年退任、それ以降相談役として亡くなるまで務めた。

振り返って見れば、国貿促の業務活動及び相談役としての 62 年間、中村さんはとくに財政面でそれぞれの事業が赤字にならぬよう苦勞された。隠れた功勞者と言える。

以上